

第1回特別支援教育コーディネーター研修会 報告

6月5日（金）に第1回特別支援教育コーディネーター研修会を実施しました。東部小学校の押田先生より、特別支援教育コーディネーターリーダー研修会の内容について、伝達していただきました。また、東部教育事務所より、特別支援教育支援員の和田絵里先生にお越しいたいただき、「書字指導について」と題して講話をいただきました。研修会で学んだ内容を共有します。

（1）特別支援教育コーディネーターリーダー研修会 伝達講習（東部小 押田先生より）

① 幼小連携と実態把握の重要性

- ・就学時には指導要録等が送られるが、幼児教育施設では「個別の指導計画」が未作成のケースが多い。
- ・書類だけでは伝わらない実態を把握するため、長期休暇を除く平時にコーディネーター等が実際の様子を参観し、担任や加配保育士から聞き取りを行うことが推奨される。
- ・その際「年長児用チェックリスト」の活用が有効である。

② 小・中・高・特別支援学校への引き継ぎと進路指導

- ・学年進行に伴い子どもの実態（自閉的傾向から知的障害の実態への変化など）が変わる場合があるため、本人の特性に合った学びの場を柔軟に検討する必要がある。
- ・引き継ぎには学校だけでなく、家庭や放課後等デイサービスでの様子も含める。
- ・また、高校や将来を見据えた進路検討は中学校からではなく「小学校卒業まで」に開始すべきであり、保護者や本人による実際の学校見学が強く勧められる。
- ・特別支援学校高等部への進学には教育相談が必須であり、入学後の不登校を防ぐためにも本人・保護者の双方が納得して進路を選択することが重要である。

③ 学びの場変更時の留意点:

- ・特別支援学校から小中学校の特別支援学級へ移行する場合、特別支援学校のカリキュラムにない「理科・社会」の学習達成度を丁寧に引き継ぐ必要がある。
- ・また、自立活動の実践で悩む場合は総合教育センターへの相談が推奨される。

（2）指導講話「書字指導について」

東部教育事務所 特別支援教育指導員 和田 絵里 先生

① 書くことのメカニズムと動かしにくさの背景

- ・文字を書く行為の土台には「読む力（音韻変換）」に加え、形や交差を正確に捉える「見る力（視覚認知）」、それを脳内で設計図にして手を動かす「運筆の力」のすべてが必要である。
- ・手の動かしにくさ（目と手の協調の苦手さ）がある子どもは、鉛筆の操作がぎこちなくなり、文字が枠からはみ出す。この背景には、姿勢を保つ「前庭覚」、圧力を感じる「触覚」、指の曲がり具合を察知する「固有覚」といった感覚を脳内で統合して微調整する「フィードバックループ」のつまずきがある。

② 指導上の注意点と合理的配慮

- ・感覚と運動の統合に課題がある子に対し、「丁寧に」「何度も」といった根性論的な反復練習を強いることは、学習意欲を奪う危険性がある。
- ・そのため、黒板の文字を写す負担を軽減するためにタブレット端末によるデジタルノートを活用したり、表現する時間を延長したりする「合理的配慮（代替手段の活用）」を校内に広めることが重要である。

③ つまづきの要因に応じた具体的な支援例

困難さのケース	想定される背景要因	具体的な支援手立て
漢字が書けない	意味の未理解、空間認知の弱さ、長期記憶の弱さ	イラストとの関連付け、部首ごとの色分けや分解、語呂合わせ
板書に時間がかかる	ワーキングメモリーや視覚・空間認知の困難さ	音読による手がかり、手元用の板書メモや写真の提示、凸凹マスの活用
作文が書けない	エピソード想起・語彙・文章構成の困難さ	写真や動画の振り返り、気持ちを表す文例選択肢の提示、付箋やアウトラインメモの活用

④ 特別支援教育コーディネーターに求められる役割

- ・特別な支援が必要な子どもたちを支えるシステムを機能させるためには、何よりも「子どもの実態把握」が不可欠である。
- ・富山県が作成している「学校生活チェックリスト」や「支援検討チェックリスト」を活用し、つまづきの背景にある要因を多角的に分析することが求められる。現在は、チェックを入れると苦手な要因の候補を自動で示す「サポートシート」や、支援方法がリンクしている「学びQ&A」も公開されており、これらを活用することで教員の負担を減らしながら適切な見立てを行うことができる。
- ・書けない子どもたちは決して怠けているわけではなく、教室の中で静かに困りながら必死に頑張っている。コーディネーターは、そのSOSにいち早く気づき、校内で実態を共有して適切な合理的配慮や組織的支援へと繋いでいく役割を担っている。

6 当日の様子



7 事後アンケートより

(1) 本日の研修会を通して、印象に残ったキーワード

- ・小中の引継ぎ（3名）
- ・（子供の）実態把握（3名）
- ・協調運動
- ・漢字を書くことへのつまずきと対応
- ・支援に活かすために

(2) (1) のキーワードが印象に残った理由【一部】

① 小中の引継ぎ

- ・市教委が個別の教育支援計画・個別の指導計画を作っているということを前提にして保護者の同意を得られたら、小学校の関係資料はすべて中学校に引き継げると思ったから。
- ・保護者の同意を得た内容と、実際に引き継いでいる内容が一致していないことや、各小学校によって引継ぎ資料が異なっていることを知り、標準化、一本化が必要だと思ったからです。
- ・中学校への引き継ぐものが定まっていなかったように感じた。今年度は、しっかりと定めたらよいと思う。

② 子供の实態把握

- ・実態把握の大切さを改めて感じたため。
- ・推測できるつまずきの要因をしっかりと把握して、手立てを講じることが大切であると改めて感じたからです。
- ・県リーダー研修での講演の報告、書字指導の講演でも、児童生徒をよく見て、何に困っているのかを把握することの重要性を改めて感じました。書類での情報も貴重であるが、実際に見て、聞いて、感じていくことを大切にしたいです。

(3) 研修会の感想【一部】

- ・先生方と情報交換をすることで、疑問点等を解消することができた。また、機会があれば情報交換をしていきたいと感じた。また、講義を聞いて、実態把握の大切さを改めて学び、より細やかな支援に繋げていきたいと感じた。
- ・書字指導について、具体的なつまづき要因や支援の方法を教えていただき、大変、参考になりました。また、今日学んだことをコーディネーターとしてどうしていけばよいかを考えることもできました。ありがとうございました。
- ・いつの間にか「研修会」が「連絡会議」になっていました。「コーディネーターとしての役割と職務に関する研修を行い」という趣旨を考えると、普段している各校の取り組みについて話し合いたいです。就学の手続き、委員会の持ち方、就学時健診、特別支援の見方（UDなど）の校内研修の進め方等、研修することはたくさんあると思います。そういった具体的な研修をしたいです。
- ・講師の先生のお話が分かりやすく、参考になりました。短い時間でしたが、他校の先生と情報交換をする機会をとっていただいたのが良かったです。
- ・今年度末の引継ぎまでに、市内統一で標準化、一本化していただけるようお願いしたいです。